

特集：カビから発生する害虫と対策

巻頭言

9月2日の日経新聞に経済学者のジャックアタリ氏のコラムが掲載されていました。アタリ氏の本は過去に何冊か拝読しましたが、今回のコラムも「実現の可能性が非常に高いと考えられることは、一般的に予想よりもずっと早く起きる」と云う法則についての内容で、大変興味深いものでした。

アメリカのアフガニスタン撤退後の政権の崩壊スピードは予想をはるかに超えるものであったことや、冷戦崩壊後の東西ドイツの統一がこちらも10年はかかると云われていたことが実際にはたった1年足らずであったこと、また今回の新型コロナウイルスの感染拡大や変異ウイルスの出現も想定をはるかに超えてしまったために、対策が後手に回りワクチン接種を義務化するしか方法が無くなってしまった等、いくつかの例を挙げて説明されていました。また政治や社会的な事例に加え、自分たちの仕事や家族等、身の回りの出来事も同じであるとも言われていました。

実際、今回のコロナ禍でマルマに起きた問題はまさしく、身の回りの出来事も同じであること、そのものでした。現在のマルマのコンピュータシステムの中には、継ぎ足し継ぎ足しで来た結果、システムが途中で切れていて再度同じデータを入力しなければいけない箇所があり、このまま仕事量が増加していけば早晩、大きな問題になることはコロナ以前から分かっていました。しかし忙しさにかまけて先延ばしにしてきたために、今回のコロナ禍でのPCR検査や殺菌など予想をはるかに超える仕事の急増に、逆に想像していた通りの大変な目にあってしまうこととなりました。システムだけが原因ではありませんが、特にこの8月は社員の皆さんには心身ともに本当に苦勞を掛けたなと思っています。

結局のところ考えるに、現象が想定より早いスピードで起きる原因は、社会や会社であれば想定が甘いだけであったり、個人であればただ単にずるさや面倒くささで先延ばしにしただけのことではないかと思います。やはり気づいたときに即行動が基本であることが身に沁みました。しかし、身に染みはずなのですが、やはり今日も妻に叱られました。

(雅)

カビから発生する害虫と対策

カビというと梅雨の季節に発生するイメージがありますが、カビは条件さえ揃ってしまえばいつでも発生することができます。特に現代では、室内温度は空調設備により年中差がないようになっているため、屋内と屋外の温度差が大きくなりやすく、結露が生じ、そこからカビが発生することがあります。カビが発生すると、衛生的な問題だけでなく、それをエサにする害虫の内部発生にも繋がります。今回のエムテックインフォメーションでは、カビから発生する害虫とその対策についてご紹介します。

カビから発生する害虫の種類

カビから発生する害虫には様々な種類がありますが、その中でも目にしやすい害虫は以下の3種類です。下記3種類の中にはカビ以外に穀物類などをエサとする虫もいます。刺咬性はなく人へ直接的な害を及ぼすことはありませんが、不快感を与えるだけでなく、食品工場では異物混入の恐れがあります。

種名	チャタテムシ類	
大きさ	1~2mm	
特徴	有翅型や無翅型が存在し、また種類によっては単為生殖を行うものもいる。高温と暗所を好み、乾燥や光を嫌う傾向がある。卵から成虫までに約1ヶ月、その後3~6ヶ月生存する。	

種名	ヒメマキムシ類	
大きさ	1~3mm	
特徴	カビを主食とし、食品を直接加害することはない。結露が多い木質部などから発生しやすく、木製のパレットが発生源になりやすい。翅は退化しているため飛ぶことはできない。	

種名	ナガムクゲキスイ類	
大きさ	1.5~3mm	
特徴	食品を含む穀物類のカビから発生する。その他にも、家畜の飼料である干草や新築家屋の畳、結露により生じたカビから発生する。	

カビの発育条件

カビは温度、湿度、栄養分などの環境条件が適した状態になると繁殖します。一方で、これらの条件のどれかが欠けると繁殖できず、死滅します。そのため、カビにとっての快適な環境を作らないことがカビの発生を防ぐことに繋がります。

発育に適した条件

温度	15~30℃
湿度	80%以上
栄養分	埃、手垢、食品残渣など (タンパク質、炭水化物、油分)

対策

カビから発生する害虫による被害を防ぐためには、①カビの発生予防、②カビを除去、③害虫の駆除、の3点が重要になります。特に、カビから発生する害虫はカビが生えていることで増殖することから、カビの発生予防とカビの除去が重要になります。

① カビの発生予防

カビが繁殖しやすい環境条件が欠けることで繁殖を防ぐことができるため、1.適切な温度管理、2.湿気を溜めない、3.こまめな清掃、でカビの発生を防ぐことができます。特にカビが発生しやすい場所は常時湿気や汚れ等が溜まりやすい場所でもあります。定期的を確認することがカビの発生を防ぎます。

【1.適切な温度管理】

室内と屋外との気温差ができると結露が生じます。換気を行うなどして、気温差をなくしましょう。

【2.湿気を溜めない】

エアコンやシンク周辺は結露や水の飛散が生じやすいです。適時布巾等で水分を拭き取りましょう。乾燥機や除湿器も有効です。

【3.こまめな清掃】

埃や手垢、食品残渣の放置はカビの発生に繋がります。定期的な清掃をしましょう。

② カビの除去

カビが発生した場合は害虫が発生する前にカビを除去しましょう。いきなり布巾等でカビを拭き取るとまわりにカビが飛散してしまいます。そのため、まずカビにアルコール製剤を吹き付けて10分ほど待ち、次に次亜塩素酸ナトリウムに浸した布巾やペーパータオルを当ててカビを拭き取ります。後は次亜塩素酸ナトリウムを洗い落とし、乾燥させれば除去は完了です。

③ 害虫の駆除

発生している害虫を目撃した時は、アルコールを噴霧し、直撃させることで駆除することができます。また、発生数が多い時や緊急時は殺虫剤の空間噴霧が効果的です。

【カビが発生しやすい場所】

- ・天井に設置されたエアコン周辺
- ・冷蔵室・冷凍室周辺の壁
- ・冷蔵庫・冷凍庫・製氷機周辺
- ・再利用しているダンボール
- ・調理機器の裏 ・シンク周辺
- ・パレットや台車 など



アルコールの噴霧



次亜塩素酸ナトリウムを
浸した布巾で清拭



害虫駆除や清掃を承っております。
ご希望の方は弊社までお問い合わせください。

害虫獣紹介

カマドウマ類

「竈（カマド）の近くでよく見られる馬（ウマ）のように跳ねる虫」これが今回紹介するカマドウマの名前の由来と言われています。他にも「便所コオロギ」と少し不憫な名で呼ばれるこの虫について説明します。

生態

カマドウマ類は、バッタ目カマドウマ科に分類される昆虫で、国内に14種ほどが生息します。体長は約12～23mmで、体長の3倍以上もある長い触角と非常に発達した後脚が特徴です。バッタの仲間には属する昆虫で、翅が全くないため飛翔することはできませんが、発達した後脚で大きく飛び跳ねることができます。暗く湿気のこもる場所を好み、床下などの家屋周辺にも生息しており、夜になると室内に侵入して来ることがあります。食性は雑食性で、昆虫の死骸や果物、樹液などを餌とします。また、室内に侵入すると野菜クズなどの残飯を求めてキッチン周辺に集まってくる場合があります。



写真 カマドウマの一種
Stenopelmatidae

(引用：日本ベストコントロール協会)

被害

カマドウマ類には毒はなく、人を噛んだり刺したりすることはありません。また作物や草木を荒らすこともありません。基本的に人間に対して害を与える虫ではなく、奇妙な見た目から見かけた人に不快感を与える「不快害虫」に分類される虫になります。

対策

庭に溜まった落ち葉を清掃するなどカマドウマが好むじめじめとした環境を作らないことが大切です。また、床下から床や壁の隙間を通して室内に侵入するため、そのような隙間は適宜封鎖するようにしましょう。庭で見かけた場合には不快害虫用の粒剤を散布することで侵入を防ぐことができます。室内で見かけた場合は不快害虫用のエアゾールや冷凍殺虫スプレーを使用することで駆除することができます。

食中毒情報

今月は、件数としてはウエルシュ菌および黄色ブドウ球菌、患者数としてはウエルシュ菌を原因とした食中毒が最も多く発生していました。件数は先月と同様ですが、ウエルシュ菌は1件当たりの患者数が多い食中毒のため、患者数は増加していました。

黄色ブドウ球菌の食中毒患者で介護老人施設の入所者1人が死亡する事例が発生していました。食中毒との直接的な因果関係は明らかにされていません。黄色ブドウ球菌の食中毒は、調理従事者の手指からの汚染がきっかけになります。手洗い、手袋着用、手指の傷や手荒れのチェックを怠らないように管理をお願いします。また、ノロウイルスの食中毒も1件発生していました。10月からはノロウイルスが流行しやすく、定期的な検査も推奨される時期になります。検査、健康チェック、手洗いなどの予防対策の再確認をお願いします。

全国食中毒発生状況 (8/16～9/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
ウエルシュ菌	4	99
黄色ブドウ球菌	4	47
寄生虫	3	3
ノロウイルス	1	24
不明・その他	3	13

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
株式会社 マルマ エムテック衛生検査所
メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社 / 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11
TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120
東京支店 / 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14-402
TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456
静岡支店 / 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1
TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220

名古屋支店 / 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2
TEL：(0567)69-4080 FAX：(0567)69-4081
大阪支店 / 〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田 3-5-6
TEL：(06)6475-6550 FAX：(06)6475-6567